

Trading care

共に生きる 共に働く

2025年6月1日

Vol. 61



はていはてい

HATI-HATI

HATI-HATIはインドネシア語で相手を思いやる時に使うやさしいことばです。

We made “ Japanese Sakusaku Karaage ”



4月19日（土）、センターで日本のからあげを作るクッキング教室を開催しました。意外なことに、日本に住んでいるベトナムの方々は、日本のからあげを食べたことがあっても、自分で作ったことはないという方が多く、「一度作ってみたい！」という声が上がりました。そこで、4月のクッキング教室では、からあげ作りに挑戦することになりました。

下味には白だしを使い、衣には小麦粉と片栗粉を混ぜて揚げました。参加者の皆さんには、メモを取りながら楽しい雰囲気の中で料理をしました。

後日、「家で作ってみたら子どもがとても喜んで食べてくれました。」と、嬉しいご報告もいただきました。

地域とのつながり 社会福祉法人南知多様 さわやか祭

公益社団法人トレイディングケア 代表理事 新美 純子



南知多石黒和彦町長(写真一列目左)と社会福祉法人南知多様で働く技能実習生・特定技能外国人のみなさん。バティックがとっても素敵ですね！

当法人第13期生 トミーさんとレサさん ⇒



当法人の第1期生からお付き合いのある、社会福祉法人南知多様のさわやか祭りが5月11日に開催されました。写真とお便りが届きましたので紹介します。

* * * * *

さわやか祭りでは、インドネシアの「アヤムゴレン（インドネシア風からあげ）」の屋台を出し、みなさんにインドネシアの味を楽しんでもらいました。普段の業務とは、違いますが、みんな楽しそうに地域の人たちと交流していました。

今月のやさしい日本語 「心は折れるもの？」日本語教師 林 三郎

日本語を学んでいる人たちから、「心が折れる」はどんな意味?と質問されました。最近「心が折れてしまった」「心が折れそうになった」などという表現をよく聞きます。「折れる」のは一般には「硬くて棒状の物」ですので、最初はこの表現にちょっと抵抗がありましたが、今はもうそんなに違和感がありません。最初に使ったのが1987年女子プロレスラーの神取忍さんとの説があります(「プロレス少女伝説」より)。「がっかりした」「やる気が失せた」と、今ではなんとなくニュアンスまでわかりますし、むしろ、気持ちにしつくりきます。

では「心に刺さる」はどうでしょうか?「心が傷つく」ような、どちらかといふとマイナスのイメージが強かったのですが、最近は「心に響く」とか「心に残る」というようなプラスイメージで使うことが多いようです。

ではもう一つ、「やばい」はどうでしょうか?この言葉も若者言葉でしたが、最初は「あぶない」「まずい、いけない、ダメ」という意味で使われていました。ところが今は「夢中になりそう(あぶない)」「素晴らしい」「(程度が)大きい」「すごく(おいしい)」と使い方がプラスに変化しました。このように言葉(特に話し言葉)は時代と共に少しづつ変わっていき、書き言葉にもそれが浸透していきますね。

ベトナム人の楽しいお話 ～日本の生活の中で気づいたこと～

ジウ

海外で生活していると、自分の国のこと思い出すことが誰にでもあると思います。外国を旅行していて、自分の国の代表的なお土産や日用品を見つけたとしたら、きっと嬉しくて、心が温かくなるでしょう。

写真のモチーフは、つなぐセンターのスタッフが、インドネシアで購入したものです。インドネシアの手芸である、ろうけつ染め

の技術を用いて作った、こいのぼりの染め物。日本を懐かしく思い、購入したのだと伝わってきました。

一般的に旅行中に買ったお土産は観賞用として飾ることが多く、実用的に使うことはあまりありません。時間が経つと色あせてしまいます。しかし、それらが自国の特徴を表現し、さらに特別な日に使える実用的なものであれば、もっと意味のある思い出として残るのではないでしょうか。

このモチーフはそういう意味でとても素晴らしいお土産だと思いました。これをつなぐセンターに飾ることで美しい旅の思い出を形として残すだけでなく、自分の国の文化やイメージを他の人に紹介するきっかけにもなります。

つなぐセンターには、こうした各国の素敵なもののが飾られています。ぜひ遊びに来てくださいね!

つなぐつながる楽しい話～スウェーデンの外国人介護労働者～ アンジー

私は外国人介護労働者の仕事や生活に関心があり、スウェーデンとドイツにおける外国人介護労働者の受け入れにも着目して研究してきました。今回は、スウェーデンについて少し書かせていただきたいと思います。「高福祉高負担」の国として知られるスウェーデンですが、介護の人手不足は深刻です。介護現場で中心的な役割を担っているのは「副看護師(undersköterska)」という資格を持つ方々ですが、欧州委員会(2020)の統計によると、全国で働く副看護師約18万3000人のうち約26%が他国出身者とされています。しかし、スウェーデンには日本にあるような外国人介護労働者の受け入れ制度はありません。それにも関わらず、他国出身者がここまで多い背景には、スウェーデンが難民・移民の大規模な受け入れを行ってきたことが関係しています。難民・移民背景を持つ人は、スウェーデンへ来ると、まず言語やスウェーデン社会の仕組みを学ぶ「導入プログラム」を受けます。介護の仕事は、導入プログラムを終えた人々が、その次のステップとして新たに生活を築いて経済的に自立していくための近道としてなっています。

次回は、実際に外国人介護労働者にはどのような人がいて、どのような思いで介護の仕事を自分の次のステップとして選んだのかご紹介させていただければと思います!

編集後記

多文化共生コミュニティーセンター「つなぐ」では、インド、バングラデシュ、イギリスなど、これまで出会う機会のなかった国籍の仲間が増えています。アンジーさんの外国人介護労働者に関する話を読み、日本がこれから進む道について思いを巡らせています。

介護分野をはじめ、さまざまな場面で外国人の方々と共生しながら協力し合うことは、日本社会にとって大きな転機になると思います。

陽子



↑スウェーデン南部
ヴェクショー市の風景



@TSUNAGU_TAKAHAMA

公益社団法人
トレイディングケア
〒444-1303

愛知県高浜市小池町6-5-6
TEL 0566-57-7700
FAX 0566-55-1305

日・月・祝日はお休みです。